

令和6年 2月 吉日

「子ども家庭支援センターみらい」保護者各位

子ども家庭支援センターみらい

園長 長友 美保

「児童発達支援事業所自己評価」（保護者向け）の結果について（報告）

梅花の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所に通園している保護者の皆様のご協力のもと、保護者による自己評価を過日実施いたしました。

昨年度に引き続き、今年度も全員の方にご協力いただき、ご意見を聞くことができました。結果を基に事業所の取り組みを見直し、今後の在り方を考えることができました。ありがとうございました。

評価につきましては、多くの項目で概ね高い評価をいただきました。その中で『⑬日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか』『⑭定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか』に高い評価を頂いたことは、保護者と共に子ども理解を深め、一人ぼっちで悩む子育てをなくしたいと願い、取り組んでいた事業所としてはとても嬉しく、大きな励みとなりました。

今後、周知が必要な項目として『⑨保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか』に「わからない」「どちらともいえない」という意見がありました。本事業所は主に保育所、認定こども園との併行通園児の療育活動を実施しており、現在も9割の園児が併行通園を行っています。そのため、日常的に地域の園に通園している現状があることから、事業所の取り組みとしては同法人内にある保育園との交流のみとなっています。また、『⑲個人情報の取扱いに十分注意されているか』にご意見がありました。個人情報が外部に流出することやトラブルを引き起こすようなことはありませんが、今まで以上に個人情報の取り扱い及び言動等には十分に気をつけていきたいと思えます。「わからない」の回答があった項目については、保護者会の中で説明していく機会をつくっていききたいと思えます。

今後も、保護者会との連携を大事にしながら、様々なご意見ご要望を寄せていただく中で、一人一人の声を真摯に受け止め、よりよい事業所づくりに努めて参ります。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

【児童発達支援】

公表:令和6年2月1日

事業所子ども家庭支援センターみらい

保護者等数(児童数)17 回収数 17 割合 100 %

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17				・十分に確保されている。 ・もう少し広くても良いのでは？と思うこともあります ・子どもの人数に適しているように思います。	基準以上のスペースを確保して活動しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	15			2	・職員の専門性は適切である。 ・児童何人に対して、何人の職員が必要かわからない。	現在、法令に従った職員数以上を配置しています(法令:10人までは2人以上・10人を超えて5またはその端数を増すごとに1人加えた人数以上)。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	16			1	・絵(イラスト)で描いている。	引き続き、子どもにとってわかりやすく、子どもの実態に応じた対応を心掛けていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	16	1			・給食、遊び、お集まりでわかれている。	子どもたちの実態に応じた活動空間を保障し、心地よく過ごせる環境づくりに努めていきます。年長児グループでは活動の中で、子ども自身も生活環境について学ぶ機会をつくっていきます。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画 ii が作成されているか	17				・丁寧な支援計画、本児の発達にそった支援がされていると感じます。 ・面談があり、計画作成されている。	子どもと保護者のニーズを反映し、課題に即した計画作成に努めていきます。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	16			1		子どもの支援に必要な項目を掲載し、できるだけわかりやすく、具体的な支援内容を心がけています。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	16	1				児童発達管理責任者を中心に、計画に沿った支援を行っています。
	8 活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	15			2	・毎日違うプログラム(継続性あり)である。 ・子どものわずかな変化にも気づき、その都度対応してくださっている。	子どもの発達に応じた活動プログラムづくりを行っています。今後も活動の意味や成果をわかりやすく発信していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	10	2		5	・保育園(むぎっこ)はあるが幼稚園はわからない。	併行通園児が9割をしめる事業所のため、関係する園との連携に努めさせていただいています。同法人の保育園とは行事を通じた交流を実施しています。
保護者 への 説明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16	1			・用紙をもらいました。	できるだけわかりやすい説明を心掛けていきます。説明後わからないことがあれば気軽に聞きたいと有難いです。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	17				・丁寧に説明してくださっている。	できるだけわかりやすい支援内容の説明を心掛けています。面談日の調整等いつもご協力ありがとうございます。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	14	1		2	・もう少し回数が多くても良いのではないだろうか？	保護者の方々の負担等を考えた上で(毎月何かしらの行事があるため)実施していますが、今後、回数に関しては保護者の方々の意見を踏まえた上で実施していきます。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	17				・子どもの様子や何かあった時はその時の状況を共有してもらえらるので有難いです。 ・活動のあった日は都度その日の様子を丁寧に説明してもらっています。 ・毎日、直接先生と話、情報を得ています。	今後も子どもの発達について、共通理解をはかり、よりよい支援につなげていけるように努めていきます。引き続き、家庭での様子、各幼稚園保育園での様子等も教えていただけると有難いです。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17				・いつもの確な支援やアドバイスももらっている。 ・子どもの様子が分かって安心です。	定期的な面談以外にも、気軽に相談できる場、人でありたいと思っています。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	17					今年度はコロナが五類になり、保護者会活動が増えてきていますが、引き続き、つながりを大事にする保護者会の取り組みが今後もよりよく発展していくように、サポートしていきます。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	16	1			・迅速に対応してくださっている。 ・相談した際には即時対応してくれるので信頼しています。兄弟児の相談にも対応していただいています。	今後も、相談への対応はできるだけ迅速に対応していきます。 通園児に関するだけでなく、きょうだい児や家族、仕事等々、様々な相談を受けています。一人で悩むことがないように、一緒に考えて、解決に向けていきたいと思っています。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	16	1			・グループline等も活用し伝達できている。	よりよい関係を構築しながら、情報伝達に努めていきます。
18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	15	2				今後もホームページでの発信、活動等については毎月のクラス便り、みらいカフェでもわかりやすく情報提供していきます。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	14	3			・されていると思うが、どこまで個人情報の取り扱いを制限すべきかはわからない(例:検温表の名簿は朝、登園時誰でも見られるように出している。)時々、それは個人情報では?という内容を耳にすることがある(他の子のこと等をさくことがある)。	十分に注意していますが、登園時の検温表に関してはみらいの園児保護者は同じグループの園児の検温等を見ることが出来る状態です。書式の工夫と引き続き外部の方は見れないように徹底していきます。
非常時等の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	16			1	・感染症対策は徹底していると感じる。 ・「避難口」がイラストと文字で廊下に貼ってあります。	各マニュアルは作成し、掲示しています。今後もできるだけ様々な状況を想定した訓練を実施し、備えていきたいと考えています。
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15			2		法令に従って訓練を実施しています。今後もしばしばという時に子どもたちが不安なく行動し、安全に避難することができるように、訓練を積み重ねていきます。
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	16	1			・毎日とても楽しみにしている。 ・とても楽しみにしていて、本人が安心できる場である様です。 ・グループが変わると行きたくない為 ・楽しかったことを話してくれ、満足した顔で眠ります。 ・とても楽しみにしていて、準備等も自ら行っている姿があります。	子どもたちにとって安心できる場、楽しい場であり続けていけるように、子どもの願いを大切に、取り組みを進めています。子ども自身が発達の主人公となって日々の生活を送ることができるよう、支援のあり方を追及していきます。
	23 事業所の支援に満足しているか	16	1			・子どもだけではなく、家庭への支援も行われていて満足している。 ・とても満足している。 ・その日のコンディションが悪く保育園に行きたいと言っているも帰宅後には「楽しかった」と言っている。 ・大変満足しています。	今後も子どもたちに豊かな発達を保障していく場、子どもの権利を守り、一人一人を大切に出来る場であることが、支援の充実につながっていくと思います。保護者会、関係機関、地域の方々の声を聞き、よりよい関係を築きながら、取り組みを前進させていきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

令和6年 2月 吉日

関係者各位

子ども家庭支援センターみらい

園長 長友 美保

「児童発達支援事業所自己評価」（事業所向け）の結果について（報告）

梅花の候、皆様におかれましては、益々ご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所における「児童発達支援事業所自己評価」について、自己評価を過日実施いたしました。

事業所における自己評価につきましては、今年度より非常時の対応『④どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している』の項目に今年度から「はい」と記載しています。本事業所としては、身体拘束を行うことはありませんが、支援計画にその有無を記載しています。

取り組みの中で強く感じたことは、昨今の自然災害、乳幼児の事故発生を見ていく中で、法令に従った訓練の他に必要と思われる訓練や職員研修を実施していく必要性についてです。今年度も独自の訓練や研修を取り組んできましたが、多くの気づきや学びがありました。今後もより一層、非常時等の対応について意識を高めて取り組んでいきたいと考えています。

今回の自己評価をもとに、職員全員で意見交換を行いました。児童発達支援ガイドラインを確認し、そして児童発達支援の役割（「発達支援」「家族支援」「地域支援」）について、一つ一つ共通理解を深めることができました。そして、地域社会について語り合うことができました。

今年度こども家庭庁が発足し、こどもまんなか社会を掲げています。今後はより一層子どもを取り巻く環境を含め様々な施策が推進されていきます。子どもにとってよりよい成長発達につながっているのか？必要な支援が必要な家庭に行き届いているのか？子どもの人権は守られているのか？等々…。子どもたちが抱えている問題が少しでも改善へと向かっていくように、一つ一つの施策の動向を注視しつつ、保護者会、関係機関、地域とつながりながら、よりよい社会をつくる一員（事業所）となっていきたいと思っています。

今後も、信頼される事業所であり続けていくために、事業所のあり方を問いながら、取り組みを進めていきたいと思っております。これからも、どうぞ宜しくお願いいたします。

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表:令和6年2月1日

事業所名:子ども家庭支援センターみらい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		法令に従って十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		法令に従った職員数を配置している(現在は配置以上の職員数である)。	引き続き、現在の職員配置数を継続していけるように、働きやすい環境、働きがいを感じる学びの場を保障していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		子どもの実態に応じてわかりやすい環境づくりを心掛け、子どもにとって過ごしやすい導線や空間を保障している。室内はバリアフリー、階段は手すりあり。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎日の清掃、消毒、定期的な安全点検を実施しており、安心、安全な環境づくりに努めている。活動に応じた空間や環境保障を心掛けている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		毎月の全職員での会議の中で意見交換する時間を設けている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		評価表、日常的な親の会との連携、意見箱、アンケート等の意見を受けとめ、迅速な対応に努めている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		毎年ホームページに公開している。内容について、会議で報告している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		法人で定期的に行っている。必要に応じて改善につなげている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		法人研修、外部研修、内部研修の年間計画を立てて実施している。職員へのアンケートをもとにしながら、内容や学びの場の工夫に努めている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		自発管を中心に、相談支援、専門職、担当保育士等、発達課題を分析して計画作成を行っている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		標準化したアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		子どもの支援に必要な項目になっており、専門用語ではなく、できるだけわかりやすく、具体的な支援目標、内容となるように心掛けている。	支援計画の書式の変更(令和6年2月〜)。よりわかりやすい計画作成を目指します。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		支援計画に沿った支援となっているかを定期的に確認している(児発管)。具体的に支援方法についての話し合いを実施している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		年間、月間、日案、行事等、担当職員を中心としながら、チームで検討し、職員会議で最終決定している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		年間計画作成の中で、療育内容を検討しており、季節の行事、子どもの実態に応じた活動内容を工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		個別支援、集団活動での支援について個々の課題に即した計画作成に努めている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		支援開始前に必ず打ち合わせを行っている(プログラムは当日より前に配布し、各自自分の役割や支援について考えてきた上で打ち合わせに参加している)。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		支援終了後に反省会は実施しているが、勤務時間上、参加できない職員がいる場合は文書でのやりとりを行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日々の記録は徹底しており、支援、課題、成果ができるだけ明確に記載されるように努めている。	支援についての検討時間は十分にとっているが、実際に記録を記する時間が限られているため、記録時間を確保していく。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		定期的にモニタリングを実施し、支援計画の見直し、作成を行っている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には児発音が出席しているが、ケースに応じて、クラス担当職員も同席している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		必要な連携は事業所から関係機関に働きかけている。共通理解をはかり、面談、家庭訪問、事象所訪問等を実施し、それぞれの立場での支援に努めている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか			該当児なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			該当児なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		入園前の体験、連携会議、日常的な電話でのやりとりの中で、子どもの実態把握を行い、支援の方向性について共通理解を図っている。保護者支援については年々連携が強化されてきている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		各学校への情報提供を行い、訪問し担当者へ直接引継ぎを行っている。移行後も見学や必要な支援、連携に努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		できるだけ研修や公開療育に参加し、学びを深めている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		園児の9割が併行通園児である。同法人の保育園とは行事を通して交流の場をつくっている。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		会議への参加に努めている。	事業所に文書がきた会議には参加しているが、子ども部会等についての取り組みや会議の情報を細かく把握できていない状態があるため、定期的に情報を収集し、職員間でも共有していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		活動後の引継ぎの際に、子どもの状況等を伝えている。気になることがあれば、面談日を設けて対応している。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		定期的に学習会、交流会を開催している。日常の困り感を語り合う場、関わりを学び合う場づくりに努めている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時にできるだけわかりやすい説明を心掛けている。契約後も必要に応じて対応している。いつでも閲覧可能、書面も配布している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		支援内容、支援計画についての説明の時間を設定し面談している。保護者の同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者からの悩みに対して迅速な対応に努めている。定期的な面談、保健師面談を実施し、よりよい解決に努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		事業所の保護者会、法人の家族会、県父母の会等、保護者同士がつながる場のサポートをしている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談や申し入れに対して、迅速な対応を心掛けている。事業所内で解決できない場合は関係機関へとつなぎ、できるだけ対応に遅れが生じないように努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		法人会報、事業所内おたより等、定期的に発信している。事業所と保護者会参加のみらいカフェでは療育活動のねらいや成果等について報告している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報の取り扱いには契約時に説明し同意を得ている。取り扱いには十分注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		個々に応じて必要な支援を行い、よりよい関係を築きながら、必要な配慮や工夫を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		行事への招待、療育活動の中での関わり等、子どもたちが地域を感じる機会、地域の人に見守られていることを感じる機会を大事にしている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		各種マニュアルを作成している。災害時の送迎訓練は保護者自身が送迎ルートを考える機会となっている。	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年2回以上実施。日常の活動の中でも災害や避難について考える機会や絵本、映像を見て、より理解を深めていく活動を実施している。	災害だけではなく、職員研修の中で引き続きAEDや誤飲の際の応急措置訓練を続けるとともに、子どもたちにとって必要だと考える訓練を積極的に実施していきます。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		利用契約時に確認している。園内健診(年2回)でも確認し、必要に応じて医療との連携を図っている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか	○		該当なし ※該当児がいる場合は医師の指示に基づいて対応している。不明確な場合は医療機関での検査を促している。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		期の打ち合わせや毎月の会議で報告し、全職員で共有している。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		定期的に研修を行っている。人権についての学習も定期的に実施している。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		定期的に研修を実施しており、身体拘束についての有無は支援計画に記載している(身体拘束が必要なケースは現在はない)	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)